

平成26年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、21世紀の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次代を担う女性を育成する。 2 SSHやリーダー育成・進学指導重点推進校の取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導を充実し、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。
------	---

出席者		
学校関係者	名	
生徒	名	

学校自己評価					学校関係者評価		
平成26年度目標					平成26年度評価 (1月31日現在)		
割合	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度の課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性や社会性を育む教育を展開し、社会に貢献できる人間としての高い志や使命感を育成する必要がある。 生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、国際性を身に付けさせる必要がある。 	①高い志を持った生徒の育成 ②自主自律の育成 ③生徒のコミュニケーション能力の向上 ④海外交流の充実	①リエゾン合宿やキャリア教育をより充実したものとする。 ②委員会活動や学校行事、部活動を生徒が主体的に行えるようにする。 ③英語プレゼン講座の実施やデパート・小論文指導の充実を図る。 ④ニュージーランドの姉妹校との海外交流を積極的に推進する。	①生徒が志を高めるための意欲と向上心を持つことができたか。 ②生徒が主体的に委員会活動や学校行事、部活動を行うことができたか。 ③生徒がコミュニケーション能力を身に付けることができたか。 ④生徒が国際的な感覚を身に付けることができたか。			
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上のための研究、対策を組織的に進めていく必要がある。 SSH指定3年目として、過去2年間の取組を踏まえ、活動の充実を図る必要がある。 リーダー育成・進学指導重点推進事業を円滑に進めていく必要がある。 	①教科指導力の向上 ②生徒の主体的学習力の向上 ③論理的思考力や表現力等の向上 ④文部科学省による中間評価 ⑤リーダー育成事業を通しての生徒の変容	①授業研究会や生徒による授業評価を行う。 ①各教科で模試やセンター試験の分析・報告を行い、実態把握とその対策に努める。 ②学力向上対策委員会と教科・学年とが連携し家庭学習の改善を進める。 ③大学・研究機関や他のSSH校との連携を深め、生徒交流会等を実施する。 ④これまでのSSH取組の総括を行う。 ⑤入試分析研修会や北部5校英語研究会等、効果的な取組を実施する。	①生徒の授業満足度が高いか。 ①教科として分析結果を授業に活かしたか。 ②生徒の家庭学習の時間・内容がどのように変容したか。 ③アンケートやJST意識調査等の結果より、生徒がどのように変容したか。 ④中間評価で「A」を得られるか。 ⑤アンケート等の結果より、生徒がどのように変容したか。			
3	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画に基づき、分掌・学年・委員会等が組織的に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路実現を図る必要がある。 	①組織的な進路指導の充実 ②第一志望の実現と進学実績の向上 ③個に応じた進路指導の充実	①進路研修会や新旧3学年会議等を実施するとともに、「進路室から」等の発行により教職員の情報共有を推進する。 ①②課業日や長期休業中の補習指導を充実させ、計画的に実施する。 ②志望校検討会や入試分析校内研修会を実施する。 ③進路情報の提供や進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい面談を定期的に行う。	①進路指導目標の実現に向け十分な取組ができたか。 ①②生徒の進路実現に寄与する進学補習体制が整ったか。 ②生徒第一志望の進路を実現できたか。 ②進学実績目標値(現役) 国公立大学70名・早慶上理大等40名・G-MARCH100名以上 ③適切で効果的な面談が実施できたか。			
4	<ul style="list-style-type: none"> 熊女生としての高い品格が求められており、全教職員の共通理解のもと、生活指導の充実を図る必要がある。 適応指導、心のケア等の対応が必要である。 ホームページや学校説明会等を充実させる必要がある。 	①挨拶指導、身だしなみ指導、完全下校指導等の充実 ②適応指導、心のケア等の充実 ③ホームページ・学校説明会等の充実	①全教職員による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を進める。 ②校内支援委員会を定期的に行い、生徒の情報の共有と職員会議での情報提供、関係機関との連携と協力に努める。 ③ホームページの更新と充実を図る。 ③学校説明会・見学会の内容を充実させる。	①全教職員による組織的な生活指導に取り組めたか。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒の対応に取り組めたか。 ③ホームページや説明会等を通じて本校理解を深め、生徒募集に反映できたか。			

学校関係者評価		
実施日数	平成27年2月	日
学校関係者からの意見・要望・評価等		